

はじめに

この記録は、平成23年中に本県で発生した災害の被害状況及び気象状況等を収録したものです。

平成23年は、本県においては、1月26日に新燃岳が約300年ぶりに本格的な噴火をしました。また、3月11日には東北地方を中心に「東日本大震災」という未曾有の大災害に見舞われた年となりました。

そのような中、平成23年中に本県で発生した災害による被害総額は約86億円にのぼりました。主な災害としては、新燃岳の噴火に伴い、32名の重傷者等が発生したのをはじめ、9月15日から21日にかけての台風15号による大雨では、10棟の床上浸水被害等がもたらされました。

このような災害から県民の生命や財産を守るため、県では24時間365日体制による気象情報等の監視を行うとともに、防災行政無線や全国瞬時警報システム（J-ALERT）の整備、携帯電話への防災・防犯情報メールサービスなどにより、災害時に迅速・的確に対応できる防災体制の充実を図っております。

また、各種訓練の実施や防災士の養成研修など、県民一人ひとりの防災意識の向上や知識の普及・啓発活動にも取り組んでいるところであります。

これからも、本県の地域防災計画に基づき、県民及び各防災関係機関が一体となって、安全で安心して暮らせる社会を目指し、一層連携して参りたいと考えております。

関係機関等におかれましては、本記録を防災上の関係資料として御活用していただければ幸いに存じます。

最後に、この記録の収録に当たり御協力をいただきました宮崎地方気象台をはじめ、関係機関の方々に対しまして、厚くお礼を申し上げます。

平成25年3月

宮崎県危機管理統括監

橋本 憲次郎